

事務局たより



戦争させない・9条壊すな！
総がかり行動実行委員会
11.19 国会前行動



南スーダンへの自衛隊派遣反対

寒空が広がる 11月19日 14:00~15:30、衆議院第2議員会館前で開かれた集会には 3800人が参加。この日は、アメリカ退役軍人平和会（VFP）メンバーの元陸軍兵士ロリー・ファニングさん（39）がアフガン戦争従軍経験から、南スーダンへの自衛隊派遣に警鐘を鳴らしました=写真右上。

政府は 11月15日、南スーダンPKO参加の自衛隊員に「駆けつけ警護」任務付与を閣議決定しました。自衛隊派遣の前提であるPKO参加5原則は維持されていると強弁しますが、事実上の内戦状態にある以上、「警護」は戦闘行動にならざるを得ません。

憲法を踏みにじり、言葉でごまかして、国民を戦争への道に引きずり込む、安倍政権の暴走を阻止するために、さらに行動を続けましょう。

12月8日を忘れない！

12月8日は、軍国日本が世界平和に背を向けて戦争に突っ走った日であり、返す刀を国民に向け、国家権力による冤罪の牙を剥いた日です。今年は75年目です。私たちは、宮澤弘幸・レーン夫妻ら一斉検挙の日を忘れません。2面に<コラム>「冤罪を忘れるな！」を連載しています。
(水久保文明)



「捏造記者」攻撃を許さない！

「メディアバッシングと報道の自由を考えるつどい」開く

11月18日、文京区男女共同センターで、「元朝日新聞記者・植村隆さんをまねいて メディアバッシングと報道の自由を考えるつどい」が行われました。主催は千代田区労協、JCJ、MIC三者ですが、実質は水久保文明さんが、一手に引き受け、ヒラ作成からオルグまで実施。区労協からは、小林秀治議長はじめほとんどの常幹が参加し、出席者は40人でした。



小林議長が主催者挨拶の後、植村さんが約1時間わたくして講演しました。最初に1982年に朝日新聞入社後の経歴と活動を自己紹介。会社派遣で韓国での語学研修後、1987年朝日新聞外報部。そして大阪本社社会部時代の1991年8月11日付朝日新聞大阪本社版にバッシングの対象となった元朝鮮人従軍慰安婦に関する記事のコピーをはじめ、たくさんの資料とパワーポイントを活用して現在までの経過を詳しく話し、「捏造記者」攻撃がいかに事実に基づかない卑劣なものであるかを明らかにしました。

そして最後に、ソウル市内には「記憶されない歴史はくり返される」とのスローガンが街路樹などに貼られている写真を紹介して、いまこそ歴史研究・教育を通じて将来にわたり記憶にとどめる決意も表明した1993年8月の河野談話の核心を伝え発展させていくべきだと強調しました。



終わって地下鉄本郷三丁目近くの居酒屋で二次会。植村さんはじめ20人が参加。意気盛んでした。次の行動は、12月14日の口頭弁論とその後参議院会館で行う報告集会です。
(福島 清)

<コラム> 冤罪忘れるな！④

冤源・内務省一斉検挙

旧内務省・地下鉄丸ノ内線霞ヶ関駅前あたり

真珠湾奇襲攻撃の1941年12月8日早朝、内務省警保局は、全国の特高警察を総動員、「外謀容疑者」一斉検挙を発令。「外謀」とはスパイ。北大生の宮澤弘幸とレーン夫妻を含む全国111人（月内追加15と憲兵扱52の総計178人）を逮捕状抜きで検挙。1年後時点の刑事処分は、懲役18人禁固5人罰金14人。戦争強行のために罪なき人を捕らえた国家冤罪の震源地だ。



旧内務省の開庁は、内閣制度発足以前の1874年。警察機構と地方機関の掌握を軸に、運輸、建設、殖産、民生等にわたる広範な国家権力を統轄した。特高部門は敗戦の1945年10月に占領軍の超法規覚書で廃止。47年12月に全省解体。現在、桜田通りに面した跡地には中央合同庁舎第2号館が建ち、警察庁と総務省（自治省等統合）が大看板を掲げ大部分を占めている。内務官僚OB「大霞会」編『内務省史』が詳しい。



真相に迫る決定版（本会編）

『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部・冤罪の真相 第2部・冤罪事実の条条検証 資料編・判決全文 軍機保護法全文 年表 特別添付・重要事項索引

申し込みは本会事務局までFAX・メールで（1面上部題字横に掲載）。送料税込み2300円。後払い。

【事務局から】10月25日付『北海道新聞』朝刊に「エルムに寄せて」と題し、12月11日に、北大構内で、スパイ冤罪事件の被害者・宮澤弘幸さんの生涯を辿る劇を上演し事件の真相を訴えと呼びかける記事が掲載され、目にとまりました。「宮澤・レーン事件を考える会」と北大OB有志の護憲団体「ビー・アンビシャス9条の会」の共催。1941年12月8日、日米開戦の日に軍機保護法違反との決めつけで検挙され、27歳で亡くなるまでに、何を夢見、何を奪われ、何を伝え残そうとしていたのか、思うと胸が痛みます。わたしたち真相を広める会は、この日を決して忘れません。なにはあれ集会に参加し、改めて報告します。（根岸正和）